



ユダの手紙

2013.6.28

25" 永遠. 束縛. 火の刑罰. 暗昧. 唯一. 支配.

唯一の類者
御使い
預言者.

イツホ・ソドム
ミカエル
カイン・バラム・コラ
エノク

(1-2, 3-4) + (5-7/8-10) + (11-13/14-16)

+ (17-19) + (20-23) + (24-25)

不敬虔.
(敬虔)
唯一の支配者.

×御霊.
聖い信仰.
御霊.

信仰 vs 欲望.
永遠のいのち vs 世の欲.

1-4 導入.
不敬虔者.
: 唯一の支配者を否定する.
→ さげすみ 滅び

24-25? -X-
守らぬ者
: 唯一の支配者を信じる. → 栄光. 永遠.

4. 不敬虔な者のさげすみ.

11-16 自分益. 御霊 柱. 永遠の暗昧. 火	↑ 5-10 欲. / 乞ふ 永遠の暗昧. 火	11-13 滅 14-16 待 20-23 待
20-23 御霊によさ.	↓ 17-19 御霊によさ.	5-7 滅 8-10 待 17-19 滅

3. 信仰の戦い

ユダの手紙を分析しています。第1ペテロ、第2ペテロ、ヤコブ、ユダという4つがセットだと思われますけれど、第1ペテロとヤコブの手紙が過越の祭り、第2ペテロとユダは仮庵の祭り、主の日についてということだと思われます。

第2ペテロとユダはたくさん似ているところがあるのですが、そういうところを見ながらユダを分析するほうがもっとよくわかると思います。

ユダの手紙の3節と4節、信仰の戦い、それと不敬虔な者、唯一の支配者である主を否定する人たちが現れるという3節と4節が全体の構造を規定している。長い段落、長い段落、短い段落、短い段落。長い、長い、短い、短いという形式で構成されていますけれど、5節から10節、11節から16節、これが長いほうです。17節から19節、20節から23節が短いほうです。そして、24節と25節が結論、励ましの部分、祈りの部分です。

2節から10節までのところが、エジプトから救われた。ソドムとゴモラの刑罰という永遠の裁きということと、御使いのかしらミカエルが話すこと。11節からのところは、カイン、バラム、コラという話をして、エノク、預言者エノクということですね。エノクのことばということで、エジプト・ソドム／御使いミカエル／カイン・バラム・コラ／預言者エノクという構造になっています。

滅びについて、主を待つことについて、滅びについて、主を待つことについてという滅びと信仰、滅びと信仰というのが、ユダの手紙の3節と4節、信仰と裁きということ

の具体的な例として書かれていると思われます。御使いミカエルは、「主があなたを戒めてくださるように」と言って神様に委ねる。エノクも裁きの日を待っている。主が勝利を取めるということを待っているというのがエノクのことです。ですから、その2つが滅びと主を待つことについてと説明しています。

17節から19節、20節から23節も滅びと待つこと、特に、これが信仰のための戦いを励ます段落になります。17節からのところは、不敬虔な欲望の者たちに惑わされるな。あざける者と一緒に立つなということですね。そうではなくて、主の前に立つ者、詩篇1篇みたいです。あざける者と共に座らない。それで、清い歩みをするならば、主の前に立つことができるという20節から23節のところは、あわれみを待つ待ち望みなさい、そうすると永遠のいのちに至ることになりますという短い2つは、滅びと望みについてということで、ユダの手紙は大きく4つに分かれていて、滅びについて、滅びについて、信仰の戦い、信仰の戦いということで、唯一の支配者である主を否定する者に対して、唯一の神である主に栄光を帰する者という信仰の戦いの主の日、最後の日の、終わりの日の勝利について励ます手紙になっています。

ユダの手紙の構成と第2ペテロ3章の構成が似ています。第2ペテロ3章も長い、長い、短い、短いという形で双子のように構造が似ています。第2ペテロ3章の話は、第2ペテロのほうのラジオを聴いてください。